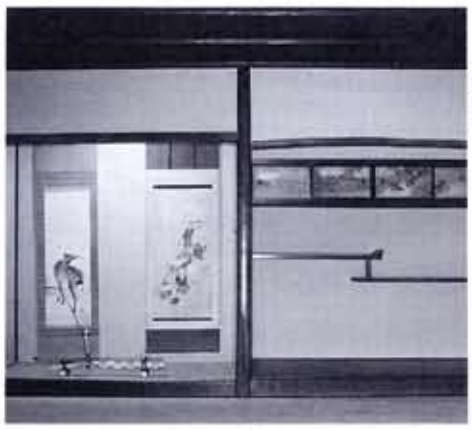
10/15
平成10年（1998年）
№680

広報 むこう

広報「むこう」は、朝刊5紙に新聞折り込みしています。
届いていないご家庭には、郵送しますので秘書広報課へ連絡してください。
内線240

●発行　向日市役所（〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20）　●編集　秘書広報課　◎電話　075(931)1111



⬅奥十畳座敷の袋戸棚には、円山応挙の孫弟子にあたる吉村孝敬の手による絵が施されている。

今 よみがえる 江戸期の町家

江戸中期の代表的な民家遺構として、京都府の文化財に指定されている須田家住宅が、このほど解体修理を終え、当時のたたずまいを取り戻しました。

平成の時代によみがえった活きた文化財として、11月17日～19日に一般公開します。

須田家住宅 この秋 一般公開

⬅須田家の主屋は、一七四四年以前に建てられた正面五間、側面四間半、一部二階、切妻造り、桟瓦葺。江戸初期には、向日町の西国街道沿いに、油屋の鳥羽家、酒屋の杉葉家など百二十七軒が軒を連ね、活気あふれる町を形成していた。

須田家住宅は、昭和62年に京都府の有形文化財（建造物）に指定され、平成3年度から、京都府と向日市の補助を受け改修が行われていたもので、このほど展示室も完備し、府下で最も古い町家が7年の歳月を経てよみがえりました。

改修工事は、主屋（おもや）を一旦解体し、古い木材で使用可能なものはすべて再利用し、壁も上塗りまで半年はねかせるという手の凝りようです。

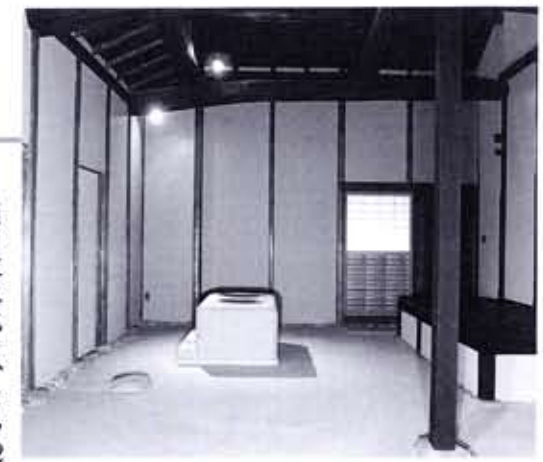
この住宅は、延享元年（1744年）以前に建築され、江戸町家の趣をそのまま残してきたもので、安藤広重の東海道五十三次の光景をほうふつとさせます。「須田家」は、「松葉屋」の屋号を持ち、明治30年代まで醤油の製造販売を家業とした旧家です。西国街道、愛宕道、丹波道の合流する地点に位置し、主屋、その北側に離れ、土蔵などがあります。

◇　◇　公開日程　◇　◇

■日時　平成10年11月17日（火）～19日（木）
①午前10時30分～11時30分　②午後1時～2時　③午後3時～4時
■費用　大人300円　小学校高学年・中学生100円
■申込　10月31日までに往復はがきに、希望者2名までの住所、氏名、年齢、電話番号、希望日時を書いて、

※小学校低学年以下のお子さんの入館はご遠慮ください。

周辺案内



⬆二間半幅のとおり土間の奥には、くどが整備された。この南側には、江戸期の石組溝遺構、須田家所蔵の醤油つくりの道具、祈祷札、古文書などが陳列された展示室がある。

秋の日に　ちょっと歩いてみませんか

長岡宮築地跡

鶏冠井町稲葉にあり、長岡宮の役所を囲む塀（土塁）の跡で、昭和56年に国の史跡に指定されました。長岡宮内裏内郭築地回廊の真南・一直線上にあたり、長岡京の建物が規則的に建設されていたことを裏付けています。

向日神社

向日町北山にあり、社伝によると、奈良時代・養老2年（718）の創建と伝えられています。「延喜式」神名帳に「向神社」と記載されており、本殿は、室町時代に建造されたもので、国の重要文化財に指定されています。東京の明治神宮は、向日神社を模して建築されたといわれています。

説法石

向日神社の大鳥居南側に大きな石があります。京での日蓮宗の布教活動を禁止された日像（にちぞう）上人が、徳治2年（1307）頃、この石の上で西国街道を行き交う人々に、説法をしたと伝えられています。

長岡宮大極殿跡

1200年以上前の建物の名称「大極殿」が、地名としてそのまま残っています。鶏冠井町荒内にあり、昭和39年に国の史跡に指定され、現在は大極殿公園になっています。
公園は、南北に分かれ、南側が大極殿、北側が小安殿として、整備・復元されています。11月11日には、「大極殿祭」が行われます。